

(19) 優良品種作出と種苗供給の安定による 国産ワカメ養殖のレジリエンス強化と生産増大

予算

農研機構・生研支援センター：イノベーション創出強化研究推進事業

概要

本課題では、養殖ワカメにおける効率的な交雑育種技術と現場ニーズに応える優良株の開発を目指し昨年度と同様に以下の研究を行った。

大阪府岬町谷川地区では漁業者により柔らかな食感を有する養殖株が経年に養殖に供されてきた（以下谷川株）。この株は優良な食感を有するが、成葉の表面に強いしわが生じる生産上の大きな欠点がある。本課題ではこの欠点の改善を目指し、谷川株と滑らかな表面を特徴とする徳島県鳴門地域で利用されている養殖株（以下鳴門株）との交雑株を作出し、その特性を調べた。

供試株 TnTn 株 : Tn 株♀ × Tn 株♂ (谷川株)
NN 株 : N 株♀ × N 株♂ (鳴門株)
NTn 株 : N 株♀ × Tn 株♂ (交雑株；食感優良株候補)
TnN 株 : Tn 株♀ × N 株♂ (交雑株；食感優良株候補)

本養殖の結果、昨年度と同様に今年度も、交雑株の内特に TnN 株は元の株となる谷川株、鳴門株と比較して高生長で、谷川株と比べて成葉表面のしわも少くなり改善を示した。また、谷川株は鳴門株と比べ薄い傾向が確認され、厚みと破断強度に相関があることが示されたことから、谷川株の柔らかな食感は薄さに起因するものと考えられた。

担当者

山中智之